

1 「ニコデモ」

- ・ヨハネの福音書のみ登場。他のパリサイ人と異なり、イエスに対して肯定的であった。

John 7:50 彼らのうちの一人で、イエスのもとに来たことのあるニコデモが彼らに言った。

John 19:39 以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを、百リトラほど持ってやって来た。

2 「夜」

- ・人目を忍んでやってきたのだろうか。イエスに関心があることを周りのパリサイ人に知られることは、仲間内から反発を招きかねないと考えたのかもしれない。

2 「あなたが神のもとから来られた教師」「神がともにおられなければ…」

- ・イエスが行っている「しるし」は神がともにいなければできないものだと見ていた。

3 「新しく生まれなければ」

- ・直訳「上から生まれなければ」
- ・親からの誕生を「下から」と捉え、霊的な誕生を「上から」と捉えている。

4 「人は、老いていながら…」

- ・ニコデモは、イエスが「下からの誕生」について言っているのだと考え、イエスの語ることが不可能に思えた。

5 「水と御霊によって生まれなければ」

- ・上から（新しく）生まれることの言い替え。
- ・「水と御霊」の解釈は分かれる。

	解釈1	解釈2	解釈3
水	ヨハネによる水のバプテスマ	肉体の出生。「水」は母の胎内の水（羊水）	二つで一つの意味。いのちの水をもたらす御霊。
御霊	聖霊のバプテスマ	霊的な出生	

- ・解釈1, 2は「水」と「御霊」がそれぞれ別々の事柄を指すと理解する。
- ・解釈1の場合、ヨハネによる水のバプテスマと聖霊のバプテスマを受けることで、人は救われるという意味になる。ヨハネのバプテスマを救いの条件とするので、適切な理解ではない。
- ・解釈2の場合、人としてまずこの地上に生を受けた後に、人は霊的に新しく生まれる、それが救いだという意味になる。「水によって」生まれることは内容のあることをほとんど語っていないことになる。したがって、この解釈も積然としない。
- ・解釈3は、「水」と「御霊」を別々の事柄を指すのではなく、二つで一つのことを語っている。ヨハネの福音書では、「水」は「いのちをもたらす水」という意味で使われる（4:14, 7:38）。その「水」をもたらすのは御霊である（7:39）。また、「水」と「御霊」に係る前置詞（ἐξ）は一つなので、両者を一つのものとして捉えていると考えられる。さらに、「その方は聖霊と火でああなたがたにバプテスマを授けられます」（マタイ3:11）という表現があるように、聖霊と聖霊がも

たらず働きを並列して述べることがある。この箇所も同じ用法と考えられる。以上より、「水」と「御霊」は別々の事柄として理解するのではなく、二つで一つのことを語っていると理解するのが適切である。すなわち、「いのちの水をもたらず御霊によって生まれること」である。

8「御霊によって生まれた者もみな、それと同じです」

- ・「風」と「御霊」は同じギリシア語 (πνεῦμα)
- ・風がどこから来て、どこへ吹いてくのかを人は知らない。しかし、風が吹いたことを人は知覚することができる。同様に、御霊がどのように働くのかは人にはわからない。しかし、御霊によって新しく生まれたことはわかる。

11「わたしたちは知っていることを話し、見たことを証している」

- ・なぜ複数形が使われるのか？「わたし」と言ったほうが自然ではないか？イエス以外に誰を含んで「わたしたち」と言っているのか？

解釈1	解釈2	解釈3
イエスの弟子たち	バプテスマのヨハネ	イエスの弟子たち+その後の弟子

- ・結論から言うと、この文脈からは、はっきりとしたことはわからない。
- ・どの解釈も釈然としないものが残る。
- ・ニコデモの発言、「私たちは知っている」（2節）を受けて、イエスも「わたしたちは知っている」と同じ表現を使ったのかもしれない。
- ・もしそうであるとすれば、ニコデモや彼の背後にいるパリサイ人のイエスに対する理解の限界を指摘するために、この表現を使っただけなのかもしれない。

〈9-11節の図式化〉

